

令和6年度 自治基本条例推進委員会 議事録

日時	令和6年10月11日（金）午後1時30分から3時15分
会場	焼津市役所本庁舎 会議室6A
出席委員（9人）	松下委員長、関副委員長、神谷委員、奥山委員、中野委員、藤ヶ谷委員、北島委員、保科委員、向坂委員
欠席委員（1人）	吉田委員
事務局出席者（3人）	吉川課長、高川主幹、西尾主任主事
傍聴者	なし
次第	1 開会 2 議事 令和6年度まちづくり市民集会の内容について 3 その他 来年度の市民集会の日程について

発言者	発言内容
吉川課長	本日は大変お忙しい中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。只今から、令和6年度第2回焼津市自治基本条例推進委員会を開催します。私は、本日司会を務めさせていただきます、協働推進課長の吉川です。よろしくお願いたします。なお、吉田委員より本日の会議を欠席する旨のご連絡をいただいております。それでは、議事の進行を松下委員長、お願いたします。
松下委員長	議事について、事務局から説明をお願いする。
高川主幹	第1回推進委員会の振り返りとして、10周年記念事業は市民集会とあわせて実施、令和7年1月18日（土）焼津文化会館小ホールで、記念式典、基調講演、パネルディスカッション、市民集会の流れで実施することを、実行委員会を立ち上げて検討することで合意。 実行委員会では、開催時間は13時から16時半、テーマは「創造しよう 夢のある焼津市～対話から始まるこれからの10年～」、開催内容は推進委員会の流れで合意され、パネルディスカッションを市民集会の話題提供とし、基調講演は松下委員長にお願いしたいと意見があった。 パネルディスカッションは45分間、コーディネーターを松下委員長に、パネラーは4～5人、事業者、推進委員、地域活動団体、福祉分野、学生から選出したい、自治基本条例に理解がある人、世代・性別は多種多様が望ましいと意見があった。 実行委員会での方向性について、ご意見を頂戴したい。
松下委員長	推進委員会で開催時間は、12時半開始としていたが、実行委員会で13時開始、10周年記念事業のあと、市民集会は14時半から16時半となった。 今日は、実行委員会の意見をベースに推進委員会としての意見をまとめていく。 開催時間は、これでいいと思う。 テーマについて、このテーマが決まった背景はどうか。
関副委員長	創造しよう、中身は前向きにやっぺいこうということで、振り返るのも大事だが、先をみようということ、新しいことをみんなで作れることを話し合っぺいほしいという想い。
松下委員長	基調講演で振り返りをして、焼津の文化を中心に、こんな風に条例を作ってきた、特にみんなで話し合っぺい作ってきた、今までやってきたことの話をもとめ、次に繋げるような話にしたいと思う。 産業界の人に入っぺいもらっぺいって条例を作ったのは、焼津ならでは。他の自治体ではほぼない。産業分野も含めて話を作っぺい行こうと思う。
関副委員長	実行委員会では、一度グループに分かれて話をしてみようとなり、3グループに分かれて様々な意見がでた。

松下委員長	漠然としているため、実行委員で事前にある程度考えておく必要がある。具体性を持った話にもっていけるように、やり方は考えないといけないと思う。 テーマは「創造しよう 夢のある焼津市～対話から始まるこれからの10年～」これでいく。 開催内容について、パネルディスカッションは、メンバー4～5人としているが、男女比について、市の女性参画の目標はどうか。
高川主幹	40%を目標としている。
松下委員長	では女性2人は入れたい。分野について、地域活動団体については、どんなイメージを持っているか。
北嶋委員	市民活動交流センター「くるさ～」の支援員などをイメージしている。
松下委員長	福祉分野はどうか。
神谷委員	誰とは名前は挙げていないが、福祉分野を入れようという意見があった。
松下委員長	学生はどうか。見込みがあるのか。
関副委員長	昨年度市民集会で、ビデオで情報提供に参加してくれた静岡福祉大学の学生が、今年の実行委員会に参加してくれている。だが自治基本条例というと、学生にとってはなじみが薄いのではないか。テーマで話をしてくれればいいと思う。
松下委員長	パネラーは、実行委員会で決めたほうが良いと考える。 何人か案を出して、全体のバランスを見て考えればいい。
奥山委員	市民集會に複数回参加してくれた人がいい。例えば学生の時に参加し、現在大学生や社会人になっている人とか。
松下委員長	それぞれの分野で探す中で、ある程度事情が分かっている人を挙げてみたほうがよい。
保科委員	市民集會の参加者に自治基本条例を知ってもらうための市民集會であるため、パネラーにはある程度分かっている人をお願いしないとならない。
松下委員長	事務局には、パネルディスカッションをスムーズに行うための大まかな流れを作ってほしい。
吉川課長	メンバーが決まった時点で、ウェブ会議等で顔合わせはした方がいいか。
松下委員長	した方がいいだろう。
関副委員長	一度顔合わせはした方がいい。
松下委員長	学生については、無理なようなら無理して入れることはない。 実体験が少ないため、話が一般的、抽象的になってしまう可能性がある。
関副委員長	先日、高校生に市議会の議場を使って報告会を行っていた。
保科委員	市議会のことなら、知りたいと思っている学生ならば参加し易いと思う。
松下委員長	学生がパネラーをやるとなると、ハードルが高いと考えてしまうだろう。
保科委員	現実的なことだけでなく、これからこうなりたい、こうしたい、こういう焼津がいい、という意見が出てくるといいという希望から、「夢のある焼津市」というテーマにした経緯がある。若い人の方が、体験が少ないから意見がでるのではないか。
松下委員長	グループのファシリテーターは、現状の話だけでなく、これから先を頭に入れて、グループをまとめていく必要がある。
北嶋委員	実行委員会では、例えばドラえもんのような、大きな未来の意見について具体的な発表にしてもらいたい。そのためには、パネルディスカッションの中で具体的な答えを出してしまうと、逆に意見が出にくくなるのではないかと懸念があった。
奥山委員	問題提起までをパネルディスカッションで話すイメージか。
松下委員長	問題提起と未来の展望の、漠然としたありかたのようなものもいいか。
奥山委員	学生が入ると違う感じがしてくる。今までの自治基本条例を知っている人でパネルディスカッションをし、設立当初の想いから、10年でだんだん変化してきているところがあるので、それが話題となるのではないか。意識の変化で、どういう風に変現可能な流れになってきたというのが、話題としては10周年として面白い。その先の展望を参加者の皆さんで考えてくださいという流れがいいと思う。
神谷委員	実行委員会でグループで議論している中で、この10年があってこの先の10年を考えていくため、今まで市民集會でやってきた人に出てほしいと意見があった。

松下委員長	パネラーは、推進委員からも案を出してもらって、実行委員会で検討してほしい。推進委員会は、次はあるのか。
高川主幹	市民集会前にはない。第3回は市民集会後となる。
松下委員長	それでは実行委員会で決めてもらうとしてよいか。
一同	異議なし。
松下委員長	学生は、無理に呼ぶ必要はない。 市民集会の各グループでは、何をテーマに話すかは決めないのか。ファシリテーターの問題提起により話が変わってくるということか。
関副委員長	グループの細かいテーマは決めていない。市民集会では、いつも司会者の他にファシリテーターを2人たてているので、この方に任せる形になる。
北島委員	フレームワークの感じで、想像するための質問を準備しておき、順番に考えてもらい、発表まで導く流れでやってもらえば、ファシリテーターもうまくいくのではないか。
松下委員長	基調講演とパネルディスカッションを聴き、こんな町になったらいい、という案を出してもらい、共感できる話を決めてディスカッションすればいい。10年後に繋がるような、実現できるような話に持っていく感じがいい。
奥山委員	テーマから想像すると、対話というと、人と人とのことと感じた。テーマに沿った絞り込みをしていった方が解りやすいのではないか。
北島委員	対話というのは、ワークショップのことなのか、漠然とした対話のことか。
松下委員長	自治基本条例でいう対話は、繋がりを表すと考える。
保科委員	市民集会のグループでは、若い人たちから、お年寄りの話を聞きたいという意見が多くでていた。逆にお年寄りからは、若い人には言えない、聞いてくれないんじゃないかといった感情がある。このギャップを埋める何かがあるといいと考える。
関副委員長	核家族化で、若者の身近に高齢者がいない人も多いのではないか。
松下委員長	市民集会では、年の多い人は、若者と話して元気をもらったという人も多い。
保科委員	実行委員会ではディスカッションするが、それっきりで終わってしまう。次は来年の市民集会となり、関係は繋がっていない。
神谷委員	対話について、誰と誰がとまでは考えていなかったが、腹を割って話ができればいいと思っている。
北島委員	繋がりがなくても対話が必要。初めての人とも対話してまちづくりが進んでいくのではないか。また、ある程度関係性ができていることを繋がりと捉えている。
松下委員長	ファシリテーターの導入で、対話について、議論のように思われないう、あいさつも対話なので、気軽な気持ちになるよう進めていったらいいのではないか。
向坂委員	ターゲットルども館のボランティアに来てもらい、体験談をしてもらうのはどうか。対話のきっかけの仕方など、ヒントがもらえるのではないか。
松下委員長	サブテーマの対話については、実行委員会で確認した上で進めてほしい。 パネラー選定は実行委員会にお願いする。パネラーとは、ウェブ会議等で顔合わせをしたい。パネルディスカッションの大まかな流れについて進めていく。12月に予行演習を実施し、そこで展開を確認する。
吉川課長	パネラーとの顔合わせの時期は、予行演習前の方がいいか。
松下委員長	予行演習後がいい。 託児について、他の会議で託児を設けず、会場の端に、地域のボランティアが見てくれる場所を設置することがあり、こういったやり方でもいいと思う。
奥山委員	会議にこどもが乱入してもいい雰囲気づくりも必要な時代になってきている。
松下委員長	市民集会でやっても問題ないと考える。
藤ヶ谷委員	パネルディスカッションについて、話題提供にするところが一番気がかり。パネラーにお願いする上で、趣旨を理解してもらわないと、パネラーも大変ではないか。 テーマについては、実行委員会では、テーブル毎に内容が変わっていて構わないとの意見があった。中身が具体的にできるよう、パネラーの持ち味をどう生かすかが懸念する点である。

松下委員長	私はあまり心配していない。10年後にこうなったらいいなど、前向きな話になっていくように考えたい。
藤ヶ谷委員	自治基本条例の周知啓発がポイントだと思う。10年の節目で、もっと浸透させていく会にしたいので、アピールしてほしい。
松下委員長	了解した。組立てが簡単でないが、全体が繋がるようにしたい。 以上で議題を終了とする。
吉川課長	事務局から連絡事項をお伝えする。
高川主幹	来年度の市民集会の日程について、実行委員会で検討した結果、令和7年12月13日（土）に焼津文化会館小ホールで開催を予定することとなった。
吉川課長	次回の推進委員会の開催時期は、2月ごろの開催を予定する。日程確定したらご案内する。 それでは第2回自治基本条例推進委員会を終了いたします。本日はお疲れ様でした。